

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17 - 学長 - 6
-----------------	-------------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	文化的伝統の継承と現代的展開:北方ロマン主義から「文化力」へ				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費 2,200 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策学部	芸術文化学科	助教授	谷川 真美	北方ロマン主義とその現代における展開
共同研究者	(外部) 作家、児童文学研究者			那須田 淳	ドイツ文化とその現代的活用
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 ①ミヒヤエル・ゾーヴァ講演会 ②文化的伝統の継承と現代的展開に関して:文化的伝統とその活用法に関して(仮) (学内研究会)		発表日 (発表 予定日)	①平成 17年6月4日 ②平成 18年 12月	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

地域には、その地域ではぐくまれた文化芸術の伝統がひきつがれている。

現在メディアのありかたが変化し、地域をとりまく環境がグローバル化しつつあるなか、文化芸術のありかたも変化しており、変化に即応しないものは姿を変えるか衰退するという現象がみられる。しかし、伝統的文化芸術にある特性は、地域にとって精神的支柱といえるものであり、それを失うことは地域のもつ力そのものを失うことにほかならない。これまで実効性を伴わない「精神的」なものであると考えられてきた文化芸術の伝統が新しいかたちでいわゆるハイアートの枠を超えてよりポピュラーな芸術形式へと援用されることによって、実は地域の活性化のみならず、地域を再発見させ、情報発信の源となる新しい「文化力」のもとになるという事例をヨーロッパ北方といわれる(ドイツを中心とした)地域を中心に検証する。

(研究の実施方法等)

文献資料において、北方ヨーロッパ(主にドイツ)において近代の芸術的思考を牽引したロマン主義の文化芸術に関する調査研究を、現地で同伝統が芸術、ひろくは応用的な美術領域でどのように展開されているか、現地調査を交え、行った。

さらに、北方ロマン主義的な伝統の現在的な展開のひとつとして、そのような伝統との関係性が強く意識されるアーティスト、ミヒャエル・ゾーヴァ氏の来日に伴い、ヒアリングおよび本学でのシンポジウムを行った。

(得られた成果等)

近代産業の成熟と衰退という現象は、単に経済的な問題ではなく、精神的な疲弊をも招くが、そのような状況からのひとつの救済措置は、新しい産業の隆盛だけではなく、このような経過のなかで放置される文化的伝統の見直しであり、それに基づいて行われるさまざまな近代産業遺跡の、リデザインによる文化施設への転用などの方策であったり、地域の文化的伝統を新しい感性のもとで消化したさまざまな文化的イベント、あるいは、そのような地域の伝統を深いところで思い起こさせるが、しかしメディアとしては新しくまたより一般的、大衆的な文化への応用であることが、調査研究により検証される。

このような方法によってのみ、文化的な伝統は、地域の中で活かされ、その地域の人々に自分たちとともに、地域の精神が息づいていると実感させるようなリアリティのあるものとして意識される。